

英国の軍隊の士気が急激に低下した——調査

<https://www.rt.com/news/577374-uk-military-morale-drops/>

RT

June 2, 2023



イギリスでは、兵役につく者たちが貧しい住宅事情や低賃金に不満を持っており、その士気は下がり続けている——この国の国防省による新しい調査が明かにした。年次国軍連続意識調査（AFCAS）の結果が、木曜日、軍によって発表された。

ほぼ3万人の英軍関係者が、2022年9月から2023年2月の間に行われた世論調査に、協力を求められた。このアンケートは、オンラインと書き込みの両方で行われ、接触を得たのはわずか31%——およそ9,176名——で、彼らは返答を戸惑った。

この調査によると、隊員の間、全体的な「兵役生活に対する満足度」は下がり続け、前年の50%に対し、平均42%まで下がった。回答をしたうちの将校クラスは、より多く満足していて52%となっているが、他の兵卒は、39%しか兵役に満足していなかった。

貧しい住宅事情と低賃金が、軍隊にとって問題であり続け、調査された兵役軍人の42%しか、彼らの住宅環境に満足していないことを示している。回答者の31%だけが、「基礎給与の率」に満足だと答えた。回答者の51%ほどは、彼らの給料と手当がフェアだと思わないと言い、それ以外の回答内容は31%に過ぎなかった。

この落ち込みは、大きく英空軍（RAF）隊員の不満な態度（意識）からきており、RAF 以外の分野の「満足度レベル」は全体的に、大きくは変わっていない、と軍部は注意した。陸軍の隊員が最も満足していて、45%の満足度を報告しているが、空軍、海軍、海兵隊は、満足度の平均が 37%を示していた。

士気（morale）のレベルの評価は、同じように愕然とするほどで、回答者の 11%のみが、全体的な兵役の士気は変わらない——前年調査と比べて 3%減——と言っている。同時に、兵役者のほぼ 39%は、彼ら自身の士気は変わらないと応え、その 22%は、彼らの軍隊の士気はトップレベルだと言った。

兵員の約 3 分の 1——34%——だけが、自分の任務を「評価されている」と感じ、その指数は、遡って 2021 年のピーク時 41%の後、急激に落ちている。隊員の半数はまた、彼らの家族も、自分たちの任務から利益を得ていないと考えている。しかし、隊員の 80%は、今も、自分の家族が軍隊に関係していることを、誇りに思っていると考えている。

【訳者 Greatchain 注】

ここに「士気」と訳されているのは morale（読みはモラル）である。モラルとは、人々が集団として持っている精神の力のことで、特にそれが軍隊であれば「士気」であり、広く「風紀」と訳するのが妥当なこともある。これは、もちろん moral, morality（道徳）につながった概念で、この語は「道徳の力」を意味するとも言える。我々が戦争で戦うとき、武力だけで戦うのではない、精神の力、道徳の力（moral power）をも動員しなければ勝つことはできない。それは正義の力でもあって、動物が正当な住処に住み、そこで産んだ仔を育てているときには、自分より強い侵入者と戦っても、しばしば勝つことができることに、この真理は現れている。

ここに述べられている「士気」は、ほとんど兵士の給料や待遇の問題に偏っている。それも確かに士気に影響する——腹が減っては戦ができぬ——が、その肝心の部分は、最後の 2 つのパラグラフにある。つまり、兵士や軍人は、自分が祖国や民族のために、命を犠牲にしても戦うという、責任感、誇り、正義感、優越感といったものを感じていなければ、戦いを勝利に導くことはできない。

ここでは英軍の間の士気の低下が問題になっているが、士気はもちろん、給料や生活条件だけで決まるわけではなからう。たとえ高給を与えられても、たとえば罪のない市民を殺せと命じられたときに、「士気が上がる」などということはあるまい。もしそれでも士気が上がるようであれば、そんな者たちは人間以下の獣だから、戦争行為そのもの

が不可能で、やがて自然の道理に従って自分で死ぬだろう。残念ながらそういう出来事は、ウクライナでも中東でも起こっている。ただ歴史は霊的なものであって、物理学では動かない。

またバイデン政府のように、政府が自ら率先して、墮落・腐敗や反自然の手本を示してみせ、しかも歴然と自国民を敵に回すようであれば、これも滅びの道を自分で選んでいるのである。ただそれまでに、大なり小なりの時間がかかるというだけである。

だから、わが国政府のように、滅びるとわかっている相手と協力するのは、どう考えても賢明なやり方ではない。なぜ、この者たちが滅びるまでの時間を、わざわざ長引かすのか？「歴史は単に物力で動いているのだ、お前が言うようなことは信用できない」と言うなら、今起こっていることの時々刻々のニュースを調べてみればよい。すべてがほぼ予測通りに進行している。核兵器というものの一つをとっても、私はロシアがすべてを握っていると思う。参照：「なぜ核兵器が使われないのか？」

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/161028.pdf>

「なぜロシアの熊は、常に恐ろしいものになっているのか？」

<https://www.dcsociety.org/2012/info2012/220507.pdf>